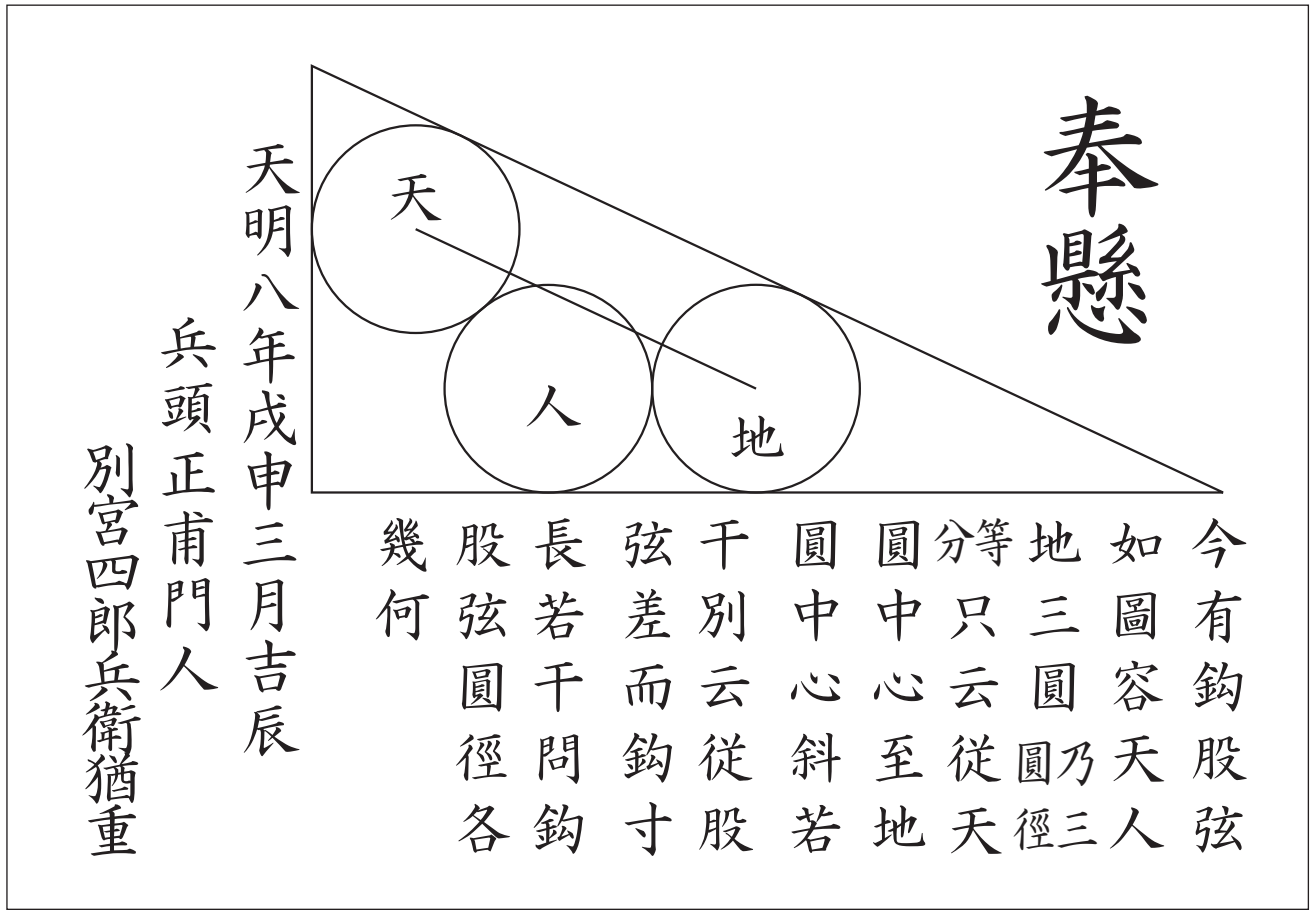
社寺名　金刀比羅神社（大洲市新谷乙1779番地）

奉納者　別宮四郎兵衛（猶重）

奉納年　天明8年3月（1788年）



解　説

愛媛県内最古の問題だけの唯一の算額で、この問題は一般には解けないことより、算額奉納初期の「難問が解けることを祈願」して奉納されたものである。

別宮四郎兵衛は、新谷藩御取持方とされ、文化7年（1810）没としかわかっていない。その師兵頭正甫は大阪で起こった詫間流の和算家で、和算の主流をなす「関流」に対し本県唯一の「詫間流」の算額である。

平成17年12月27日愛媛県指定有形民俗文化財に指定され、現在は大洲市立博物館に保管されている。

問題文

図のように、直角三角形（鈎股弦）に天、地、人の３円を入れる。ただし、３円の直径は等しい。天円の中心より地円の中心に至る線（斜）は既知（若干）、股と弦の差より鈎は既知（若干）だけ長い。直角三角形の３辺（鈎股弦）の長さと円の直径はいくらか。